

## ディスコグラフィー掲載

### ディスコグラフィー【2018No.114】(HP 掲載)

分類：CD

作曲家：ハイドン

曲名：チェロ協奏曲 1 番・2 番他

演奏：ウェン・シン・ヤン／ゲオルク・エガー指揮アカデミア・ダルキ・ボルツァーノ

発売：OEHMS

No. : OC782

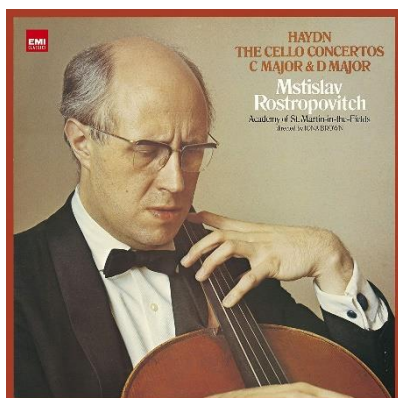
概要：

ウェン・シン・ヤンの出演した PAC スtrings の演奏会で求めてきたものです。本 CD は、マイナーレーベルのものらしく、ネット検索でも見つけることはできませんでした。ハイドンのチェロ協奏曲は他にも手持ちのものがありますので、それらと聴き比べてみました。



聴き比べたのは次の盤です。

- 1)日本コロムビア COCO-78020 ハイドンチェロ協奏曲 1 番・2 番  
ミクローシュ・ペレーニ／ヤノーシュ・ローラ指揮フランツリスト室内管弦楽団
- 2)BMG BVCD-34002 ハイドンチェロ協奏曲 1 番・2 番協奏協奏曲変ロ長調  
鈴木秀美／ジギスヴァルトクイケン指揮ラ・プティットバンド
- 3)EMI ハイドンチェロ協奏曲 1 番・2 番  
ムスティスラス・ロストロポーヴィッチ (チェロ&指揮) /アカデミー室内管弦楽団



#### 4) Harmonia mundi HMC-901816 ハイドンチェロ協奏曲 1 番・2 番他

Jean-Guihen Queyras / Petra Muellejeans 指揮 Feiburger Barockorchester

今回取り上げた、ウェン・シン・ヤンとエガー指揮アカデミア・ダルキ・ボルツァーノ盤は、ヤンのチェロもエガー指揮アカデミア・ダルキ・ボルツァーノもオーソドックスな演奏で、演奏会で聴いてきたそのままの高弦の艶と低弦のざらっとした感じがでています。

これに対し、ペレーニとローラ指揮フランツリスト室内管弦楽団盤は、廉価版 CD ですが、その割には聴かせるものがありますが、音は一番 CD 臭い音です。

鈴木秀美とクイケン指揮ラ・プティットバンド盤は、明晰で艶っぽい演奏です。こういった演奏を好まれる向きも多いかと感じます。

ロストロポーヴィッチ (チェロ&指揮) とアカデミー室内管弦楽団盤は、よくもわるくもロストロポーヴィッチの個性がにじみ出ている演奏で、ロストロポーヴィッチが歌わせるチェロの歌に載せられてしまいます。

Queyras と Muellejeans 指揮 Feiburger Barockorchester 盤は、Harmonia mundiらしい音作りの音が派手目で、演奏ももう少し抑え気味の方がよいのではないかと感じます。

#### 2012.5.1 収録 ゴーティエ・カブソン / ドウダメル指揮ベルリンフィル



宮殿の大広間のような会場でのヨーロッパコンサートです。カブソンとドウダメルの若いコンビが生き生きと演奏し、シューボックスの会場の形状から、ベルリンフィルの音色が本拠地と異なってウイーンフィルのように響きます。

以上